

ものなり、

〔萬葉集三〕柿本人麻呂羈旅歌八首略○中

天離夷之長道アヲカレヒナナ從戀來者ユナガチユコヒクレ自明門アマカシノトヨリヤトシヤミ倭島所見ユ

〔增補下學集上〕虫明迫門ムシアケノセト備前

〔本朝無題詩七〕旅館付路次旅館付路次虫上狹渡岸上古寺

楓柳江頭舟宿辰枕涯晚寺影齋淪晴沙日照庭無夜白浪花飛砌有春鐘響不驚林底鳥佛恩暗浴水

中鱗檀那昔日利生願一禮征人結善因

〔狹衣〕海のおもては、きしかた行末も見えず、はるくくと見たされたるに、よせかへるなみばかり見えて、ふねのはるかにこがれ行が、心ぼそき聲して、むしあけのせとへ、こよひとうたふも、

哀にきこゆ、

〔玉葉和歌集八〕備前守にてくだりける時、むしあけといふ所のふる寺の柱に書つけける、

平忠盛朝臣

むしあけのせとの明ぼのみるおりぞ都のこともわすられにける

〔散木弁詞集五〕羈族羈族むさけのせと、いふ所にてよめる

たのもしやむさけのせとをいる程は立しらなみもよらじとぞ思ふ

〔倭訓栞中編三十〕おんど おんどのせと。安藝の海にあり、昔平相國堀通らせられたる所也、瀧のごとくに潮はやく狹き所也と、嚴島詣記にみえたり、

〔鹿苑院殿嚴島詣記〕十日康應元年三月またこぎ出させ給略おむどのせと、いふは瀧のごとくに

しほはやくせばき處なり、舟どもをしおとされじと、手もたゆくこぐめり、

〔西遊記續編三〕隠戸の瀬戸